大震災の以前から、漁の準備をす(岩手県田野畑村)です。東日本ク」の「番屋エコツーリズム」

漁の準備をす 景勝地の北

る「番屋」を守りつつ、

山崎海岸をサッパ船で巡るなど、

プログラムを行っていたが、突然地域の人々の力でさまざまな体験

というのが、旅心をくすぐられま 艶やかなものが秘めやかにあっ

の津波に見舞われ、番屋が流され

交流文化賞の在り方や意義について語り合った

JTB交流文化賞 第10回記念座談会

地域の魅力を創出、発信 自ら需要を創造する

求めているのは地域地域の「ら」 っているのです。その良さが口コます。これこそが最高の資源にな ミで広がったのです。 ったかというと、 して受けとめられたからです。取り組みが、非常に大きな驚きと たなと強く印象に残って ってきました。体験者は何が良か しながらも、すべて自分たちでや 目立経営に対しての島を挙げての んじて始まり、地域の課題である マが、この小さな末端の離島で先 インバウンド事業は、右往左往 「もてなし」に感動したと語り 他の地域の参考になるカギ この島ならでは



見城 美枝子さん

青森大学教授 ジャーナリスト・エッセイスト

という人もいる。

震災を乗り越えたのだから大事だ

しきにりょう。 の結果ようやく残った。 小樽運河の倉庫群も国民的な運 しきたりなど。 小樽の雪あかりの周辺、 何が価値かが分からなど



久保田 穣さん

JTB常務取締役

蓄えながら、これからもこの賞をがとうございます。そのご意見をり

政所
私は第4回最優秀賞の選ばせていただいた。 会」(長崎県小値賀町)です。 「おぢかアイランドツ

バウンドや教育旅行という、今各も殺到しています。なぜならインとって参考になるでしょう。視察 島の活性化のお手伝いをしていま 地域が取り組もうとしているテ 小値賀はさまざまな地域に

旅心をくすぐられる

逆転の発想ですよね。「ダメだよ」が売りなのにレールの上を走る。 と誰かが言って本来ならできなく

とで、第7回(20

年度)

非常に画期的です。

マウンテンバイクは自

前向きに使っているという意味で

久保田

廃線という負の遺産を

みんなを元気付けているというこ

れた時には、防災学習などを加え てしまった。交流文化賞に応募さ

騨市)が良かったですね。ルマウンテンバイク」(虹

(岐阜県飛

安島 去年は最優秀賞の「レ

と誰かが言ったのかしら。受賞す なるところが、「それって面白い 普通なら廃線と同時にレ -がある

そうですし、「新哥!十つのですし、「新哥!十つのですし、「新哥」と 多いですね。 見返すと一般的に有名なところが 安島 第1回から第3回までを

「兵庫県豊岡市の

分たちの生活の周りで、建物であいというならば、その前にまず自よね。この地域にみんな来てほし とは課題になりますね。 ら嫌だという人もいるし、これンボリックなものも、思い出す 市の「奇跡の一本松」のようなシ に動き出してほしいと思います 久保田 コンセンサスを得るこ 陸前高

光開発プロデ 緒に創り ユ

何もない」と「ある

サ

が非常に大事だと思います。 うイノベーションが持続すること 同じことをやって ということになるのです。そうい まれて、もう一度行ってみようかころは次々に新しいアイデアが生 価値を作り出していく仕組みが重 す外の人材を見つけたりすること は非常に重要な役割です。 してしまうのではなくて、新し してしまってその価値が消費され 交流文化賞の表彰を受けて安心 魅力がなくなってしまう。 地域作りで評価が高いと いると皆が経験 ずっと

おかげさまで、今年「JTB交流文化賞」は10周年を迎えます

地域に根ざした持続的な交流の創造と各地域の魅力の創出

地域の活性化に寄与することを目的として、2005年に創設され、毎年開催しています

今回も各地における観光振興に対する斬新な取り組みや、

実際に体験した交流文化の事例を募集・選定・表彰するとともに、

受賞地域を様々なかたちでバックアップして参ります

多くの皆様のご応募を心よりお待ち申し上げております

JTB交流文化賞選考委員



安島 一番印象に残っているの強い作品をお聞かせください。 る賞として発足しました。 は「体験村・たのはたネットワ う高い志を持った方たちを応援す 自ら需要を創造する、それによっは、地域の魅力を創出、発信して て地域の活性化に寄与したいとい な状況の中で、JTB交流文化賞 証ではないでしょうか。このよう (きています 山から交流文化に進化している まさに観光が物見

くすんでしまったような町に実はた。また、それが大変艶やかで、そこからまちづくりがスタートし もう一つ「ある」方は第8回最時間はいいなと思います。 ぼんやり待つだけという、そんな でんな駅に行って、来ない電車を 優秀賞の一本杉町町会「花嫁の と。第7回の優秀賞のということと、「ある」 ドは二つあります。 んの町」です。何もないと思っ 員会」の無人駅です。「何もない けど何かある」という「JR下 いたけれど「のれん」があった。 ールドミュージアム運営委 「ある」という 「何もない 「何もない

を再生、利活用しているという実ている事例です。もちろん空き家ている」というプロセスを評価し ジェクト」です。今までの賞の対回優秀賞の「尾道空き家再生プロ回優秀賞の「尾道空き家再生プロが多いから、選ぶのに苦労します。 象はある程度知名度や実績があっ た地域が多いのですが、これ 作品は見事な活動をしている地域 「景観づくりとまちづくりを続け 最終選考に上 そうですよね。

久保田 交流文化賞は、観光振かったのではないでしょうか。 績はありますが、これは今までな 興だけでなく、 空き家など社会課 もちろん空き家

地域活性化や観光まち

う半分埋めら

れて危ないところだ

けて運転手を募集しました。そう

するプラットフォームようという、人やアイ

人やアイデアが集結

ムのようなも

のを作ることもJTB交流文化賞

も、とりあえずないいない地域の人いう答えが出ていない地域の人

とりあえずここに相談してみ

いるつもりです。

したら全国から説明会に

豊

ぐらいの応募があり、

最後に絞ら

れた5人の人たちは、一人数百万

生まれる仕組みを

じめている。そういった時代の傾題のようなところにも目が向きは 向はあるのでしょうか。 ことも大切です。地域の人が参加ですけれども、「壊さない」という イスや意見をいただきたい 見城 発掘していくことも重要

ったり、記念の像がどこかに移さしないうちに建物が壊されてしま れたり、そういうことがあります はならないものがあるということ に目覚めて、それを壊さないよう 生活文化であり、今壊されて 建物であ

ている地域の人たちに何かアド いろいろな場面で活動 方やストールに「昭和レト 価値がないと 後高田の町も こそ、その後の観光地がある。った。そういうものが残ったか 宣言にあるように、企画プロデュ -スという点 政所 J T ·B交流文化賞の創設 それまではほとんど ロ」というモノの見 思われていたところ うものが残ったから

すみ鉄道は、鉄道ファンに呼び掛廃線の危機にあった千葉県のいとがあります。 からお願いしたいこ

> きる時代でもあるのです。 部違うのでいろいろな人が活躍で できる。地域によってテ さえあげれば、人を集めることが 地域がこれをやりたいという声 います。

の研修費を自己負担で運転手の 「これをしたい」 いすみ鉄道を支

が地域と一緒になって何かを創り 職を作りはじめました。 開発プロデューサー」という専門 出しプロデュースする。 創立10回を契機に考えていただけ 社を中心に20人弱配置して、 に総合研究所も作りました。 への力だけではできないので、 スとしてJTBグループの中 JTBでは 「観光

れを開発したり、そこから作り出 地域の資源があって、そ 各地域会 それは個 彼ら

第10回JTB交流文化賞募集



交流文化賞(組織·団体対象) JTBは、地域の観光交流・地域活性化の取り組みを 支援・推進いたします。

●『わが"まち"に誇りを持つために』

地域活性化の活動は、従来から地域に生き続けて いる自然や文化、歴史などの価値を損なうことなく 地域が持つ豊富な知恵や特性を存分に活かしたア イデアを盛り込むことが重要です。等身大のまちの 姿をありのままに伝えながら、まち全体でもてなす工 夫を見つけた時、旅行者に新鮮な感動を与えられ、 地域の皆様はわが"まち"に誇りを感じられることで

しょう。そんな地域の取り組みを教えてください。



代売をしてい いと思ってい

今までは

→ 募集内容 → 交流文化賞 組織·団体

応募様式 指定の応募用紙 国内外を問わず、地域として 最優秀賞 1作 賞金100万円 地域固有の魅力の創出・需要の創造、地域活性化 双方向の文化交流など、オリジナリティを活かした [持続可能な観光]の取り組み事例を募集します。 優秀賞 2作 賞金50万円



ジュニア部門

締め切り

2014年

9月15日

目で見るだけでは物足りない。五感で感じて触れあった旅の 体験ほど、心に深く刻まれて人生での大きな糧となるでしょ う。著名な観光地を訪れるだけではなく、自らが見つけて、 知って、交流するという能動的な旅のスタイル。交流文化体 験賞では、旅を楽しむあなたの、人と人とのつながりやふれ 合いから生まれたエピソードを募集しています。

募集内容、応募要項など詳しくはホームページをご覧ください



選考委員の皆さまに集まっていただ を、これまでの受賞作品を振り返って を、これまでの受賞作品を振り返って

語っていただいた。

(東京・品川のJTB本社で)

見城美枝子、政所利子、久保田穣の各 を迎えた。これを記念して、安島博幸、

「JTB交流文化賞」が今年で第10回

持続可能な観光地づくりを応援する

(4)

安島 博幸さん

立教大学観光学部教授

を元気付けるのでしょうね。

を守ったのです。すごいことです。

安島 そういうところがみんな

地域のシンボルだといってレー

が、この地域の人々はこれこそがールを全部外してしまうのです

られるか、修学旅行などの団体を こに、国の支援をどうやったら得 ネルギーの強さを感じました。そことを知ってもらいたいというエ で優れた技能、技術を持っている っている東大阪の町工場や、そこ が第7回優秀賞の「東大阪」です が、その中で一番印象に残ったのをできるだけ実践しているのです の人の話を聞くという「3現主義」 規地に行って、
 いますが、所管の仕事でもあるの で、賞を贈った地域については、 久保田 日本のモノづくりのベースにな 私は選考委員を務めて 現物を見て、現地

被災者らを元気づけ

番屋エコツーリズ

ろ。旅心をくすぐられるキーワ 私自身が旅心をくすぐられたとこ

持っているノウハウがうまく結 どう集客するかという、JTB

メモリアル賞)

ン祭り」(第1回創設記念審査員

「札幌市のYOSAKO

見城 印象に残っているのは

す。 大阪がとても印象に残っていま して出来上がっている。それで東 つすべて挙がりました。 確か、どれが最優秀賞に 第7回は豊作ですね。三 「越後妻有」

安島

でしたよね。それで激論して。なってもおかしくないという接戦 上がってくる いものごとに広がってきて、こないところが多く、いろいろ新 う感じ。最近の作品は知られて 印象を受けます。

い。交流文化賞の社会的な意義をている人たちを表彰する賞は少な が活性化するために地域で活躍 地域に着眼して、

交流文化賞によって発掘しているいものごとに広がってきて、この ど、前から手がけてきて、ここで り」(第2回最優秀賞) もう一度改めて賞を贈呈したと 高田の昭和の町」(第2回優秀賞)、 (第2回優秀賞) 「小樽の雪あか 「豊後 ところが非常ところが非常 造する」とあ されていく。 はなくて、 的な効果など の場所に行っ 交流文化賞の が訪れるとそ に行こうとなる。 するところに 久保田 たら

していく社会 会が少し方向を変え

る価値を利 意味がある。 の地域の価値を創造 があるわけですが その代償として経済 目的には「地域の魅 の地域の価値は消費 して創り出していく して旅を作ります。 いている人は少な 利用するだけで 基本的には、 自ら需要を創 次は他の場所 度そ

きている中で、この賞は交流文化 目分を発見することだと思いま くるのかとか、感動する自分を新 いのがより貴重です。 に行き、人と交流をして、 旅に求めているものが成熟して ああ、こんなことに涙が出

に光を当てる。そこに大きな意味 物を見るのはだいたい1

ちづくり」(第1回優秀賞)や 他の 離島、 地域 小値賀の取 の参考に り組み なる

源を一方的に利用する傾向でした

今までは、その地域の資

お客さまの方もだいぶ成熟に

てきたのではないでしょうか。

うことですが、この言葉に多くの

(DMC)」を目指しているとい

・マネージメント・カンパニー

TBは「デスティネーション

があるかもしれませんね。

も、交流文化という立量すされていたと思うのです。

交流文化という位置付けを

選考委員の皆さんはどう評価され 会社は常に地域にあ

るように思うのです ある時代に、どうしても代われな ってきましたから。 りができます。お墓参りもネッ 得たりというのは今、何かで代 何か物を見たり知ったり情報を ・ビスを利用する時代にな 何か代わりが

自分でそこ 久保田

Bの社会的な

ぬ泉のような地域資源を求めてい 今のお客さまは汲めども尽き は消費型だったのです ものがあっても見慣れているか 居る人はその地の魅力を発掘しづ 要素が含まれています。その地に いのです。 目の前に素晴らし

と、旅行会社として生きのところを深く掘って、 資源を消費していることすら感じ るだけでは限度がある。 役割としてあると思います。 思うのです。その言葉で目覚める その役割をJTBが担っていると ら。ここの空気はこんなに澄んで くのはなかなか難し 人が地域には必ずいる。そのきっ ういう反省も含めてやってきていなかったのかもしれません。 て素晴らしいと誰かが教える。 旅行会社として生き残っていこころを深く掘っていかない づくりも、JT まさにわれわれもそこ

地域活性化プロデューサー ろに意味があると。 とまったところで、 るところにとって、 なるようにこれらを整理する必要 安島 久保田

政所 利子さん

玄代表取締役

など非常に参考になります。 いろいろな価値の創り出 地域の参考に

これまでの受賞作品は

に意味があると。貴重なお話で自分でも創り出していくとこ あせてしまい、 ればいろいろな発見があるのです

所には会いたい人がいるなど、回で飽きてしまう。何度も行く と思うのです。それまでの旅は色 とした発想が未来を予見していた の要素が大きいと思うのです。 いうような、本当はもっと見 名称をJTB交流文化賞 回行けばもうい 何度も行く場

に段階で、永遠のサイクルが回る。 そういうサイクルで旅が消費 A STEAR 郵送またはインターネット*で ご応募いただけます。 詳しくはホームページを

ご覧ください。 ※交流文化体験賞ジュニア部門は郵送のみ受付

JTB交流文化賞

COMPOS

お問い合わせ先 JTB交流文化賞事務局

(株式会社JTB総合研究所内)

TEL.03(3525)4559 (10:00~17:30 土・日・祝日休み) FAX.03(3525)4565 e-mail: jtb-kbunkasho@tourism.jp